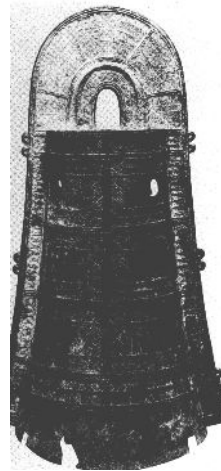


前芝の歴史探検

1 銅鐸が発見された

前芝中学校の西隅に、「銅鐸が埋もれていた」という看板が立っている。大正13年に、前芝中学校の校地から3個の銅鐸が発見された。日色野町の畑の中からも、同じ時代に捨てられた貝殻がたくさん発見されている。

日色野町から学校にかけては、海岸に突き出た小高い丘でした。中学校の字名も「塩見塚」と言います。このことから、海岸に近い前芝町・梅敷町はまだ海の中だったようです。



2 前芝の燈明台

寛文8年（1668）吉田藩主：小笠原長矩公の御用船が三谷沖で暴風雨にあい遭難したため、翌年建設された。吉田湊や前芝湊を行き交う船の重要な指針となっていた。明治40年10月に県営燈台ができるまで使用された。

昭和40年（1965）5月21日に愛知県から史跡に指定された。豊川放水路の堤防脇にある。

3 戦歿^{せんぼつ}学徒の碑

昭和20年8月7日、太平洋戦争による学徒動員中に、豊川工廠で爆撃にあい戦死した学徒をまつたもので、昭和28年（1953）2月に前芝小学校の父母教師の会によって建立された。前芝国民学校の学徒10名の名前が裏面に刻まれている。前芝中学校の校門脇にある。（高さ3.6m 幅1.4m 厚さ20cm）

前芝小 林 茂男

